

評価室活動報告

◆受注目標達成

ひと・まち社評価事業は、受審の問い合わせを4月から受け始め、8月には目標件数30件に達しました。その後も定期的に評価を実践している法人や事業所からの依頼を受け、年度末までに41件を受託しています。受注の特徴は、高齢分野では特別養護老人ホームが多く12所と契約し、子ども分野は保育所が少なく、3年継続の最終年度となる児童養護施設3所を実施すること、障害分野は年度初めに発送したダイレクトメール（リーフレットと見積依頼書を送付した案内）の問い合わせから2所と新たに契約し、他にも新たな契約が3事業所ありました。また、特別養護老人ホームの利用者調査のみを実施する「東京都の利用者に対する調査」は4件依頼を受けています。

分野	高齢						子ども		障害			
	特養	G H	通所	認知 通所	シ ョ ー ト	小 規 模	定 期 巡 回	児 童 養 護	認 可 保 育	就 労 継 続 B	多 機 能	生 活 介 護
件数	12	7	2	1	1	1	3	2	5	3	2	1

◆評価の動向

都は評価結果等の情報について、公共職業安定所に対し、職を求める人に事業所情報を収集するための情報として利用してもらえるよう働きかけをしています。

全国的な第三者評価の流れを見ると、受審する事業所件数の7割が東京都で、都のように年間3500件（2021年度は3,694件）を超えている実績は稀で、年間4・5件の実績という県もあります。全国の評価事業を推進している全国社会福祉協議会は、評価の質の向

上を図る検討会を行い、新しい手法の導入による受審のしやすさや評価結果の公表の仕方を検討するとともに、推進組織を担うことが難しい道府県の推進展開を引き受ける機関の設置を検討して、厚生労働省にナショナルセンター（仮称）の設置を求めています。

◆評価者の状況

年度当初は主たる所属評価者30名でしたが、新たに従たる所属の希望を受けて評価者1名が加わりました。毎年9月に開講する東京都福祉サービス評価推進機構主催評価者養成講習に2名が受講して合格し、年度末までに33名体制になる予定です。

新しい評価者も増えたことを受け、今年度の上半期ではマニュアル検討委員会を設置し、これまでのマニュアルを見直し、冊子にまとめて評価者全員に配付し、評価実施にあたっての手法を再確認しました。

毎年10月から1月は評価実践は最も忙しい時期となり、2～3名のチームによる事業所に出向いての調査や合議が続きます。幸い今日まで評価者に新型コロナウイルス感染者は出ていません。

評価者間の意見・情報交換は評価室会議で行っています。第2回会議は10月14日に小規模な内部研修も含めて行いました。コロナ禍の状況を踏まえリモートでも参加できるようにして、評価手法遵守や手順の確認等を行い、実践した際の感想・疑問などを出し合い、ひと・まち社らしい評価の在り方を追及しています。

ひと・まち社では引き続き評価者になる方を募集しています。資格要件は福祉事業の現場に3年以上勤務の経験がある方、事業を経営（社員20名以上）した経験がある方を求めています。ご興味のある方は、お問い合わせください。



●寄附のお願い

市民シンクタンクひと・まち社の主な事業は、調査研究と福祉サービスの第三者評価です。利用者や市民の視点に立ち、介護保険制度に関する基礎調査や子ども調査、評価事業に取り組み、活動から得られた政策課題を地域活動や市民提案に活かせるようにしています。

これからも認定NPOとして情報発信を充実させ、市民参加型地域社会づくりに貢献できるよう活動していきます。ひと・まち社への寄附は、税額控除の対象となりますので、確定申告をすることで、税制上の優遇を受けることができます。皆様のお力でひと・まち社を支えていただきますよう、お願い申し上げます。

報告書一覧

◇高齢者に関する調査研究

- ・介護保険制度検証のための基礎調査 報告書1～5
- ・介護予防・自立支援に関する高齢者実態調査

- ・市民後見活動に向けた調査
- ・介護保険制度改正に伴う市民の意向調査・自治体調査報告書（2015年度）
- ・新総合事業に関する市民の意向調査・自治体調査2015～2017年度
- ・地域包括支援センターに関する調査報告書2019年度

◇子どもに関する調査

- ・子どもの育ちを支えるための調査
- ・子どもの自立と支援に関する調査報告書2020年度

◇寄附は下記の口座へ

～ひと・まち社へのご寄附は税額控除の対象になります～

- ・郵便振替口座 00170-6-410791
NPO 法人市民シンクタンクひとまち社
- ・三菱東京UFJ銀行 新宿中央支店 普通 5298170
特定非営利活動法人 市民シンクタンクひとまち社

編集後記:松葉づえを使っていて気づいたことがある。歩道が傾いていてデコボコもあるなどとても歩きにくいのだ。バスを降りるときは、松葉杖を先に地面につくため体は前かがみになり、ギブスにも関わらず、思わず飛び降りたことがあった。ベビーカーや車いす、杖が必要な人たちの苦勞を思うと、まちづくりに当事者が参加することは忘れてはならない視点なのだ。(K)